医学研究センター

医学研究センターの設立の意図と期待

山内　俊雄
（前医学研究センター　センター長）

埼玉医科大学の医学研究センターは今から2年前の平成17年（2005年）8月1日に設置された．設置の目的は，医学研究を推進し，支援することである．その目的を達成するために，いくつかの部門を設け，それらをセンターとして取りまとめ，本学の研究の振興，推進に向けて，センターが統合調整の役割を果たすとの意図をもって組織作りをおこなったのである．

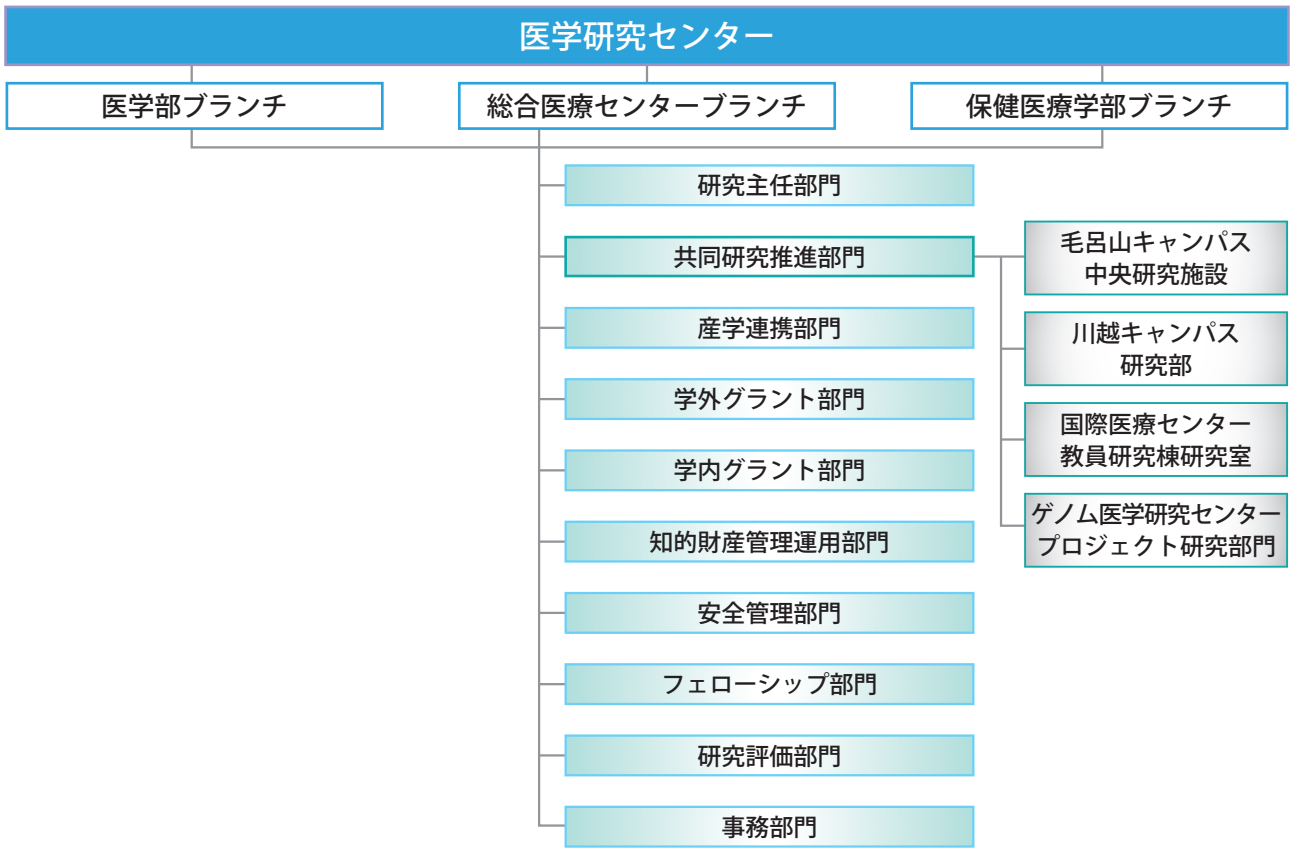
ところで，医学研究センターを設置した背景には，大学が本来どうあるべきか，大学が大学らしくあるためには，何が求められているか，という基本的な問いかけとも関係していたのである．近年，医療制度が変わり，医療経済が厳しさを増す中で，大学といえども経済性を無視することができず，経済原理に支配されるようになり，教員も収益を上げることに意を用いなくてはならなくなった．また，大学が教育にかける時間は増大する一方で，特に医療系大学では，それぞれの専門性を確保するための国家試験に合格するように学生を十分教育するように配慮することが求められている．

このようにして，教員が教育ならびに診療に多大な時間を取られる昨今の状況において，大学の存在意義はどこにあるのか，一般病院で働くのとくらべ，大学で仕事をすることの意義をどこに求めればよいのかといった，大きなテーマを大学はかかえることになった．その問いに対する答えのひとつが，本学の教員組織を作るにあたって定められた，教員に求められる責務である．そこでは，「すべての教員は教育の責務を負わなければならない」，「教員は，常に研究的視点を持たなくてはならない」と謳っている．別の言い方をすれば，すべての教員は，研究的視点を持って，教育，診療を行うべきことを求めているといえよう．

ところで，研究には，臨床研究と呼ばれるように，毎日の臨床の中で問題を見つけ，解明し，臨床の現場にフィード　バックするものから，世界に冠たる先端的な研究や，基礎研究と臨床とを結ぶトランスレーショナル　リサーチと呼ばれるものなど，いくつかの研究があるが，これは便宜的な区分にしか過ぎない．たとえ研究テーマや研究方法が異なっても確かな研究的視点に基づいて行われる研究であれば，いずれも大学の使命に合致するものであることには変わりがない．

そこで，本学においては，各基本学科で独自に行われる研究とともに，プロジェクト研究のシステムを導入し，医学研究センターの支援の下に研究を推進しようと計画している．その結果，競争的資金の獲得が推進され，研究資金が増大し，その結果として得られた成果が知的財産として，特許の取得やトランスレーショナル　リサーチへの移行などに結びつくなど，多くの成果をあげることを期待している．

医学研究センターの設立は，大学のあり方を見すえ，埼玉医科大学が大学として本来の役割を果たすことを期待してのものである．医学研究センターの今後のいっそうの充実発展を期待している．



© 2007 The Medical Society of Saitama Medical University